

保健師のための積極的疫学調査ガイド

〔新型コロナウイルス感染症〕

患者クラスター（集団）の迅速な検出に向けて

ガイドについて

このガイドは、新型コロナウイルス感染症の積極的疫学調査に携わる保健師、特に、業務応援等で急きょ人員配置された保健師をサポートするための資料です。

国立感染症研究所が公表している『新型コロナウイルス感染症患者に対する積極的疫学調査実施要領』に基づいて、積極的疫学調査におけるクラスター検出の意義、実施時のポイントを解説しています。積極的疫学調査実施要領とあわせてご活用ください。

■ 国立感染症研究所「新型コロナウイルス感染症患者に対する積極的疫学調査実施要領」 URL：<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ka/corona-virus/2019-ncov/2484-idsc/9357-2019-ncov-02.html>

クイックガイド

クラスター対策の位置づけを知りたい

p.2

積極的疫学調査の手順と概要を知りたい

p.4

確定例の聞き取りをする際のポイントや留意点を知りたい

p.7

濃厚接触者との対応について知りたい

p.12

目次

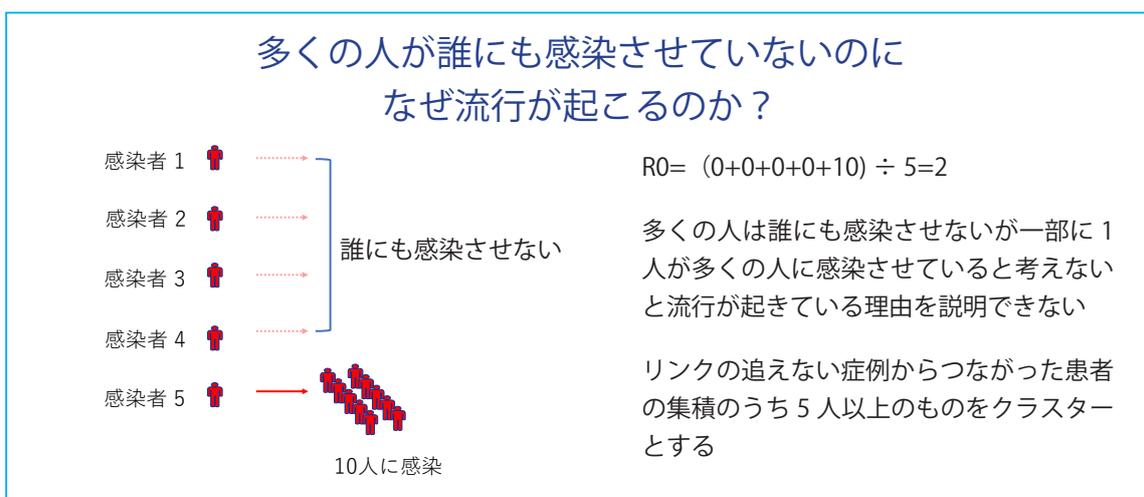
1.	積極的疫学調査におけるクラスター対策の位置づけ	02
2.	積極的疫学調査におけるクラスター対策のねらいと手順	04
3.	聞き取り調査のヒント集	07
4.	濃厚接触者との対応ポイント	12
5.	判断に迷ったとき・こんなときどうする？ Q&A 集	18
付録 1：	積極的疫学調査に携わる保健師の皆さまの心のケア	20
付録 2：	新型コロナウイルス感染症患者に対する積極的疫学調査実施要領	22

1

積極的疫学調査におけるクラスター対策の位置づけ

1-1. 新型コロナウイルス感染の特徴

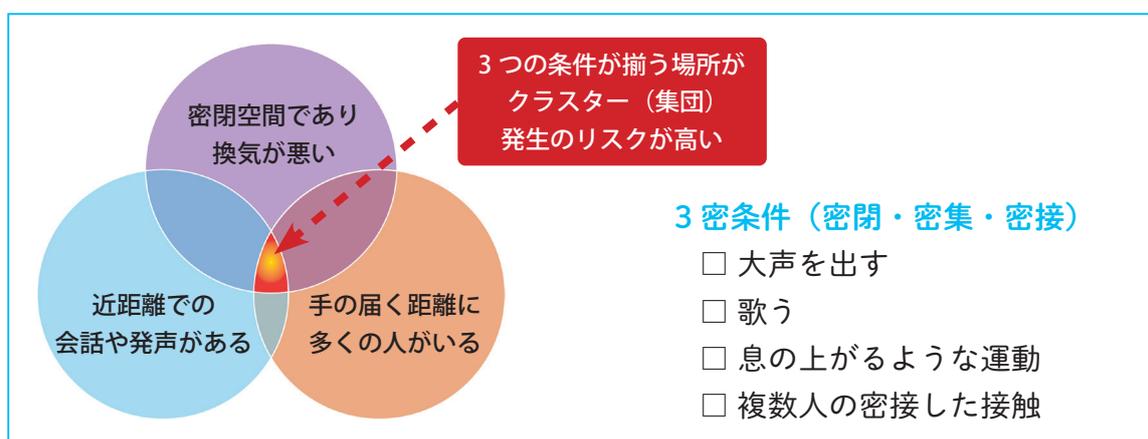
国内では全ての患者（確定例）が2次患者（確定例）を生み出しているわけではなく、全患者の約10-20%が2次患者（確定例）を発生させていることがわかってきました。つまり、多くの人は誰にも感染させないのですが、一部の患者が多くの人に感染させています。



1-2. なぜクラスター対策が必要なのでしょう

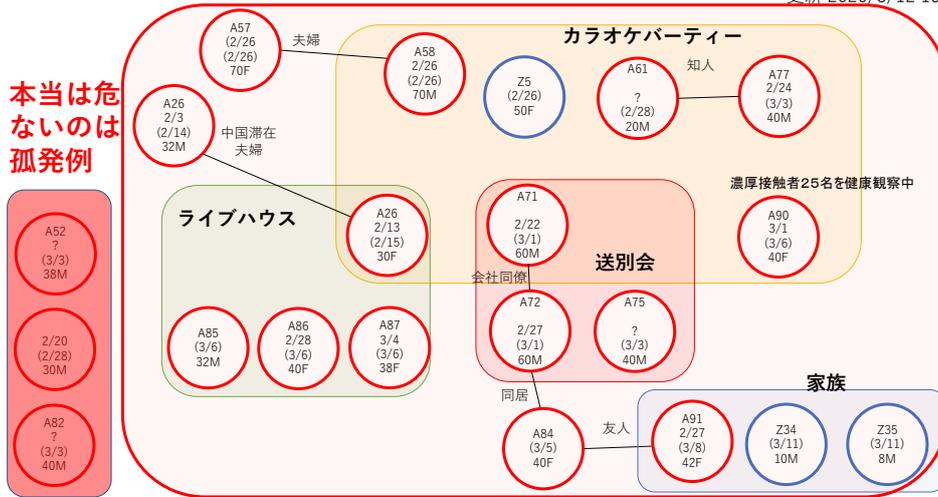
大規模な地域内流行は、患者集団（クラスター）が連鎖する、あるいは大規模な集団発生（メガクラスター）が生じてしまい、そこから二次的に多くの患者集団が生まれることで起きています。そのため、地域内での発生した患者集団を迅速に把握し、的確に対応することが感染拡大防止の鍵となります。

1-3. どのような条件下でクラスターは形成されるのでしょうか



例)カラオケパーティー クラスター(仮想)

確認 2020/3/15 18時
更新 2020/3/12 15時



- ・ 重症度とは相関しない。むしろ軽症の方が活動的でクラスター形成の可能性が高い。
 - ・ 実際にクラスターを形成した人の多くは咽頭痛・微熱など軽微な症状のみ。
 - ・ 密閉した空間においては、想定されている距離(1-2m)を超えて広い範囲での感染の可能性もある。
- 誰でも知らないうちに感染することもあり、自分で気がつかないうちに他の人に感染させるウイルスである特徴を理解したうえで、行動を聞き取りましょう。

出典：押谷仁、「COVID-19 への対策の概念」 日本公衆衛生学会 新型コロナウイルス関連情報特設サイト
URL：https://www.jsph.jp/covid/files/gainen_0402.pdf

1. 積極的疫学調査におけるクラスター対策の位置づけ

2. 積極的疫学調査におけるクラスター対策のねらいと手順

3. 聞き取り調査のヒント集

4. 濃厚接触者との対応ポイント

5. 判断に迷ったとき・こんなときどうする？ Q & A 集

付録

2

積極的疫学調査におけるクラスター対策のねらいと手順

2-1. 積極的疫学調査のねらい

- 感染源・感染経路を推定して、クラスターを検出します。
- 次のクラスターの起点となる濃厚接触者を特定し、追跡する足がかりをつくります。
- ➔ 患者（確定例）と濃厚接触者を見つけて隔離することで、さらなる感染連鎖を抑え込みます。

- 患者本人の情報を収集し、整理します。
- ➔ 確定例における、発症前から発症後の診断までの、十分かつ詳細な臨床症状や行動歴が積極的疫学調査の起点になります。

2-2. 積極的疫学調査の手順

1.

発生届を確認します



- 患者間の接触・つながりが特定・推定されている事例かを確認します。
*医療機関、高齢者施設等の施設内感染は対応方法が異なります。
自治体ルールに従い、対応を確認しましょう。
- 患者の年齢、性別、生活背景（職業、居住地域、行動範囲、生活様式等）から感染伝播リスクを評価、推定します。
- 発生届は確認できずに発生情報のみで聞き取りを開始する事例もあります。事前に収集すべき情報を整理しておきます。

2.

患者への連絡方法を決定します



- 聞き取り方法（対面・電話等）を決定します。感染リスクを考慮し可能な限り電話での聞き取りにしましょう。対面の場合は接触・飛沫感染予防策をします（**check!** 積極的疫学調査実施要領参照）。
- 患者がどこにいるのか（自宅待機、入院、自宅以外等）確認します。
- 症状の程度（中等症・重症）により本人から聞き取りができない場合もあります。誰から（本人の行動を把握している人）聴取可能か確認します。

3.

患者（家族等）に聞き取りして、必要な調査票に記載します

(check! 積極的疫学調査実施要領参照)



完成させる書式（最初から100%は目指さない、迅速性が大切）

調査票1：本人情報（基本情報・臨床情報）

- 患者の状態に配慮しながら、必要な情報を絞って聞き取ります。

調査票2：発症14日前から診断されるまでの行動調査

- 推定される感染源（誰か）、感染経路（どこで）、感染危険因子（3密）へのばく露の有無、クラスター探しをします。
- 14日間は無理でも、感染可能性の高い「発症する1週間前」を丁寧に聞き取ります。

調査票3-1：発症後の行動調査（4月20日版の実施要領では、発症の2日前からと変更）としています

- 症状の推移、接触者の有無と接触の程度、濃厚接触者を特定（**調査票3-2**にリストアップ）します。

表中の**調査票1**、**調査票2**、**調査票3-1**、**調査票3-2**は、国立感染症研究所が公表している『新型コロナウイルス感染症患者に対する積極的疫学調査実施要領』（<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ka/corona-virus/2019-ncov/2484-idsc/9357-2019-ncov-02.html>）で示されているものです。

1. 積極的疫学調査におけるクラスター対策の位置づけ

2. 積極的疫学調査におけるクラスター対策のねらいと手順

3. 聞き取り調査のヒント集

4. 濃厚接触者との対応ポイント

5. 判断に迷ったとき、こんなときどうする？
Q&A集

付録

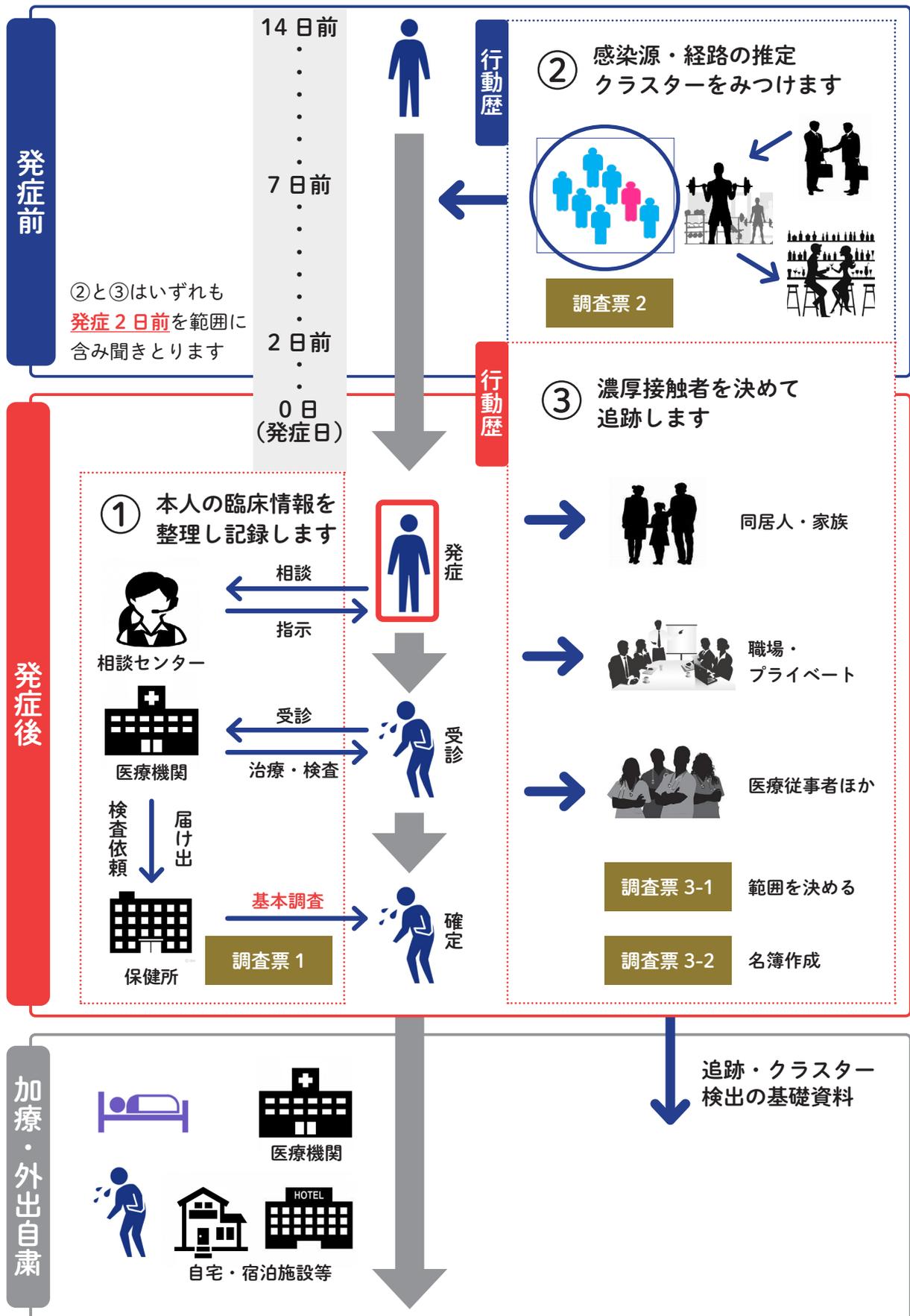


図 1 積極的疫学調査のイメージと作成すべき調査票

3

聞き取り調査のヒント集

各自治体の対応方針を踏まえ、聞き忘れや聞き漏らしを減らすためにお役立てください。

1. 基本姿勢

■ 関係性構築の重要性

行動調査では、時には他人には話したくない、秘密にしておきたいことまでも踏み込んで話を深掘りする場合があります。限られた時間、状況で関係性を構築することが重要です。

■ 聞き取りを行う患者の状況の理解

症状が出てから検査を受けるまでや検査を受けてから診断されるまでに時間を要していることも多く、記憶が曖昧なこともあります。自身の体調が思わしくなく、十分な時間をとった聞き取りができないこともあります。検査体制や医療へのアクセスについての強い意見（不満や要望・心配事）を持っており、そのことを伝えてくる場合もあります。

■ 限られた時間の中で患者の不安に共感しつつも協力を依頼する

「おつらかったですね」「この先どうになってしまうか心配（不安）ですね。」と共感を示し、体調が許す範囲での聞き取りへの協力を依頼しましょう。

2. 依頼事項（導入）

- 私は〇〇所属の〇〇と申します。現在の体調はいかがでしょう。
- 本日はあなたの最近の行動についてお話を伺います。あなたが感染したと思われる場所の特定をすることは、今後の感染の拡大を防ぐために非常に重要です。みんなで協力してウイルスの感染拡大を防いでいきましょう。
- 今までに接触のあった方や場所について伺います。お名前が挙がった方や施設などすべてにあなたの了解なく連絡をすることはありません。誰にどのように説明し、連絡をとるかは最後に一緒に確認させてください。

3. 発症日の特定と体調の経過

「いつから体調に変化があったか」によって行動をお訊ねしたい日にちが変わっていきますので、まずは症状が最初に出た日を教えてください。症状は具体的には次のようなものがあります。このような症状が出たのは何月何日でしたか？どのような症状でしたか？現在までにどのように症状が変化していきましたか。

発熱（37.5℃以上でなくても平熱より高かったとき）・咳・倦怠感（だるさ）・喉の痛み・鼻水
鼻づまり・頭痛・下痢・関節痛筋肉痛・吐き気・目の充血・味覚の異常

1. 積極的疫学調査におけるクラスター対策の位置づけ

2. 積極的疫学調査におけるクラスター対策のねらいと手順

3. 聞き取り調査のヒント集

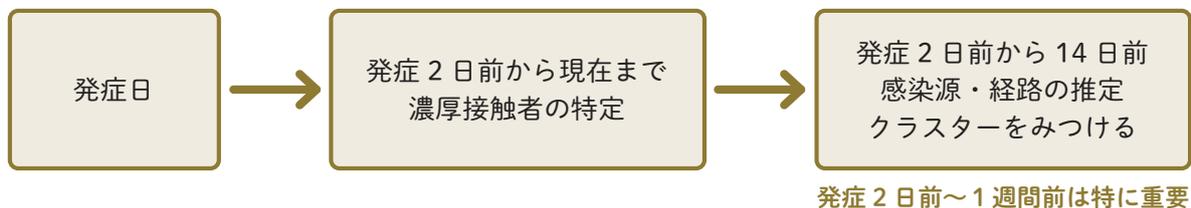
4. 濃厚接触者との対応ポイント

5. 判断に迷ったとき・こんなときどうする？
Q & A 集

付録

→ 症状を具体的に挙げていくことで「そういえば」と新たな情報が引き出されることもあります。発症日の特定はその後の聞き取り範囲を決定するので丁寧にいきましょう。

4. 聞き取りの順序

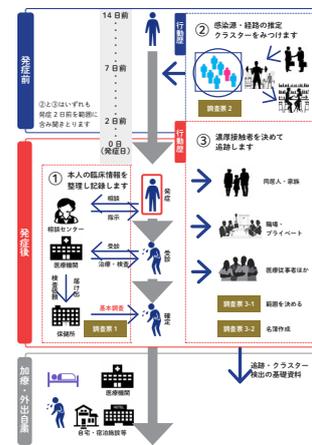


発症2日前は濃厚接触者の特定と感染者の両方について情報を得るようにします。「最初に〇〇という症状が出た●月●日(●)を発症日」として、お伺いしていきます。

まず、① ●月●日(●) **発症2日前**～現在の期間についてお訊ねします。

次に、② ○月○日(○) (発症2日前)～△月△日(△) (発症14日前)についてお訊ねします。途中でふと思い出したことがあれば順番通りでなくても構いませんので遠慮なく教えてください。

* 矢継ぎ早に聞かず、時々、相づちを打ち言葉を繰り返しながら聞き取ります。要領が分かってくると本人自身が順序立てて話して下さるようになることがあります。



① 発症2日前から現在までの行動：濃厚接触者の特定

「濃厚接触者」とは

「濃厚接触者」とは、「患者（確定例）」が発病した日以降に接触した者のうち、次の範囲に該当する者である。（実施要領より）

- 患者（確定例）と同居あるいは長時間の接触（車内、航空機内等を含む）があった者
- 適切な感染防護無しに患者（確定例）を診察、看護若しくは介護していた者
- 患者（確定例）の気道分泌液もしくは体液等の汚染物質に直接触れた可能性が高い者
- その他：手で触れること又は対面で会話することが可能な距離（目安として1メートル）で、必要な感染予防策なしで、「患者（確定例）」と15分以上の接触があった者（患者の症状などから患者の感染性を総合的に判断する）。

→ 周囲の不調者の確認

- 月●日(●) **発症2日前**～○月○日(現在)に接触のあった人の中に体調の悪い方はいましたか。
- 同居者はいますか。同居者の体調はいかがですか。

→ 「感染リスクが高い・3密」といわれる場所への行動確認

- 月●日(●) 発症2日前～○月○日(現在)に「感染リスクが高い・3密」といわれる場所や環境に行かなかったか、行動はなかったかをおたずねします。

check! P9「感染リスクの高い「3密」場面での環境や行動」を参照

→ 所属(職業・学校)の確認

- お仕事は何をされていますか(学校はどちらですか、アルバイト・副業はされていますか)。
- 今のあなたの状況を所属先は知っていますか。
- これからそこでの行動や誰と接触していたかを中心にお伺いをしていきます。

check! 具体的な聞き取りのヒントはP10「状況別の優先順位」を参照

② 発症2日前から発症14日前までの行動：
感染源・感染経路、クラスターを見つける

→ 感染リスクの高い環境への接触の確認

- 「感染リスクが高い・3密」といわれる場所への行動歴をお訊ねします。○月○日(○)(発症2日前)～△月△日(△)(発症14日前)の間にこのような場所をいつ利用しましたか。
- 同席者は誰ですか。その後、そこにいた方の中で、体調が悪いという話を聞いたことはありますか。
- 特に発症7日前の×月×日からの行動については、よく思い出していただきたいので、スケジュール帳やメール・電話・SNSの履歴などをお手元に用意しながら教えてください。近い日にちの方がより記憶が鮮明だと思いますので、発症した日から順番に昔に遡っていくという形でお訊ねしていきます。では、まず○月○日(発症2日前)からの行動についてお伺いします。どんな1日を過ごしていましたか。○月△日はいかがでしたか。

→ 感染リスクの高い「3密」場面での環境や行動

* 訪問調査の場合は図表等を用いてハイリスク環境を可視化すると思い出しやすくなります。

会食	飲食を伴う集まり・居酒屋・パブ・ダイニングバー・スナック・バー・ナイトクラブ・キャバクラ・ガールズバー・ビュッフェ・バイキング等
イベント	ライブハウス・クラブ・コンサート会場・劇場・演芸場・屋内でのスポーツ観戦(剣道、柔道など)・フェス・コミケ・握手会・撮影会・トークショー・セミナー・勉強会・展示会等
余暇	スポーツジム・カラオケボックス・パチンコ・雀荘・ネットカフェ・漫画喫茶・ゲームセンター・サウナ・岩盤浴・ヨガ・オフ会・風俗・デリヘル等
移動	出張・帰省・旅行・ツアー・カプセルホテル・病院受診・高齢者施設
その他	宗教上の集まり・PTA・町会・習い事・学校行事・合宿・寮生活・シェアハウスやシェアオフィス等

[例1] 会食の申告があった場合

日にちはいつですか。場所はどちらですか。何人で行きましたか。お店はどれ位の広さで何人位いたか覚えていますか。座席は個室ですか。隣のグループとは席が近かったですか。何時間ぐらい過ごしましたか。一緒に行った方以外の方ともお話をする機会はありましたか。

[例 2] ライブハウスに行ったという申告があった場合

どこに行きましたか。定員は何人で、何人位入っていましたか。何時に現地に着きましたか。どれ位滞在していましたか。近くにいた人は知っている方ですか。撮影会や握手会はありましたか。ライブの前後に誰と飲食をしていますか。遠征仲間等そこで一緒だった方の他のライブ参加スケジュールは分かれますか。

状況別の優先順位

◎ 必ず聞き取る | ○ できれば聞き取る | △ 時間があれば聞きとる

職場・仕事関係

会社に健康管理室がある場合は、職場での行動歴の詳細は会社に依頼可能なことがあります。その場合は、他の項目を優先的に聞き取りしてください。

- ◎ どちらに勤務されていましたか。場所はどこですか。
- ◎ どのようなお仕事ですか。(デスクワーク中心・電話対応・外回り多い等)
- ◎ あなたの職場での状況を一番よく知っている方は誰ですか。
- ◎ 最終出勤日はいつですか。
- ◎ 職場に健康管理室があり、医師(産業医)や保健師・看護師はいますか。(ある場合)健康管理室を通して職場の状況をお伺いして良いでしょうか。(ない場合)職場に連絡する際の窓口となる方を教えてください。
- ◎ 発症14日前から現在までに多くの人が集まるイベントはありましたか。
- ◎ 多くの人が集まらなくても会議や会合、昼休みの食堂や休憩室など、複数人で集まる場があったかを教えてください。
- ◎ 新幹線や飛行機を利用する出張はいつありましたか。どこに誰と行きましたか。
- ◎ 展示会や商談会のようなイベントに参加しましたか。
- ◎ あなた周りに体調の悪い方はいましたか。
- ◎ 副業(アルバイト)はしていましたか。どこで副業をしていましたか。

- 職場であなたと行動を共にすることが多かったのは誰ですか
- 社外の方との接触(取引先との打合せ・お客様対応等)はいつありましたか
- お昼はどこで、誰と食べていましたか。
- 歓送迎会やランチ会などはありましたか。参加者は何人ですか。
- 更衣室・休憩室の利用はありますか。何人くらいが利用しますか。
- (喫煙者の場合)職場ではどこでタバコを吸っていましたか。

- △ 職場はどのような通勤経路ですか。何時くらいに利用しましたか。
- △ 勤務時間は大体何時から何時でしたか。
- △ 発症14日前から現在までの休日はいつでしたか。
- △ 外回りは電車ですか車ですか。車の同乗者はいましたか。
- △ 職場では対面での会議などはいつどのような場所でありましたか。
- △ あなたの行動歴が分かる社内共有のスケジュール帳はありますか。

学校関係	<ul style="list-style-type: none"> ◎ どちらに通学されていましたか。場所はどこですか。 ◎ 最後に学校に行ったのはいつですか。 ◎ 学校に連絡する際の窓口となる方を教えてください。 ◎ 部活動やサークルに所属していますか？最後に参加した日はいつですか。 ◎ 発症 14 日前から現在までに学校で多くの人が集まるイベントはありましたか。 ◎ 学校で体調が悪い方（咳をしている人など）はいましたか。 ◎ 学校であなたと行動を共にすることが多かったのは誰ですか。 ◎ あなたの学校での状況を一番よく知っている方は誰ですか。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ○ いつどのような場所（何人くらいの教室）で授業を受けていましたか。 ○ ゼミ・演習・実験・実習などはありましたか。 ○（喫煙者の場合）学校ではどこでタバコを吸っていましたか。 ○ お昼はどこで誰と食べていましたか。 ○ サークル（部）活動はどれくらいの頻度で参加していましたか。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> △ 学校はどのような通学経路ですか。何時くらいに利用しましたか。 △ 授業時間は大体何時から何時でしたか。 △ 発症 14 日前から現在までの休校日はいつでしたか。 △ サークル部屋（部室）はありますか。いつ利用しましたか。
アルバイト （副業関係）	<ul style="list-style-type: none"> ◎ アルバイトの具体的な内容（接客、厨房業務、清掃など）を教えてください。 ◎ アルバイトはどこでどれくらいの頻度でしていましたか。 ◎ 最後にアルバイトに行った日はいつですか。 ◎ アルバイト先で行動を共にすることが多かったのは誰ですか。 ◎ アルバイト先で体調が悪い方はいましたか。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ○ アルバイトの休憩室・更衣室はどれくらいの広さに何人いますか。 ○（喫煙者の場合）アルバイト先ではどこでタバコを吸っていましたか。
個人の行動・ 生活行動	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 外出はいつしましたか。一緒に行った方はいますか。 ◎ 医療機関・歯科医院・高齢者施設にはいきましたか。 ◎ よく出かけていた場所や会っていた人はいますか。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ○ 買い物はどこに行きましたか。 ○ 理美容室・鍼灸マッサージ・エステ等は行きましたか。

1. 積極的疫学調査におけるクラスター対策の位置づけ

2. 積極的疫学調査におけるクラスター対策のねらいと手順

3. 聞き取り調査のヒント集

4. 濃厚接触者との対応ポイント

5. 判断に迷ったとき、Q & A 集
こんなときどうする？

付録

5. 情報提供の依頼

- 体調が思わしくない中、長時間ご協力いただきまして、ありがとうございました。
- ここまでで、「言い忘れていたこと、今、思い出したこと」はありますか。
- お伺いした中で、同じ時期に感染をして既に症状が出ているかもしれない方の確認、これから症状が出るかもしれない方への外出自粛や健康観察のお願いをしていきたいと思えます。
- と○○で接触があった方についてご連絡先の情報をご提供いただけますでしょうか。

4

濃厚接触者との対応ポイント

1. 基本姿勢（目的）

■ 濃厚接触者に健康観察依頼し、自宅待機を要請します

患者（確定例）が発病した日の発症2日前以降に接触した者のうち、同居あるいは長時間接触があった者（これから症状が出てくる可能性があるまたは既に症状がある者を含む）を特定し、健康観察・自宅待機要請を行います。（居住地保健所が14日間の健康観察を実施）

■ 感染源や感染経路を探索します

患者（確定例）の感染源となった人が周囲にいないかを行動歴から探索します。

感染の連鎖が既に始まっていないか、感染リスク環境が存在していたか、そこに誰がいたか、本人の申告では把握できなかった行動歴の濃厚接触と思われる人がいないか等、患者（確定例）を取り巻く環境の全体像を把握する意識で聞き取りをします。



2. 濃厚接触者の対応

① 個人が特定される場合

■ 事前準備

- 患者（確定例）から濃厚接触者に事前に直接連絡しているか、確認します。
- 患者（確定例）との関係性と接触頻度・状況を把握します。

【事前に患者（確定例）から直接連絡がなされている場合】

- 患者（確定例）または管轄保健所が、具体的に伝えた内容を確認します。

■ 説明

- 接触歴の確認・濃厚接触者となったことを説明します。

【事前に患者（確定例）から直接連絡がなされている場合】

- さん（患者または管轄保健所）から連絡があったと思いますが、ご本人と△△（接触頻度・状況）のように時間を共有されていたと伺いましたので、ご連絡しました。

【事前に患者（確定例）から直接連絡していない（または、できていない）場合】

- 突然のご連絡で失礼いたします。■■■保健所の保健師で□□（氏名）と申します。今、お時間よろしいでしょうか。
- △△（日程、場所、会議・歓送迎会等、把握できている接触内容）で一緒に過ごされた方の中で、新型コロナウイルスにかかっていた方がおられましたので、ご連絡いたしました。
- さんも、あなたに「直接説明したい」と気にしておられましたが、体調が十分ではないので、保健所からご連絡した次第です。

【共通】

- ◎ まずは、あなた自身の健康状態について教えてください。

状況別の優先順位

- ◎ 必ず聞き取る | ○ できれば聞き取る | △ 時間があれば聞きとる

健康観察

- ◎ あなたの現在の体調はいかがですか。
 - 体温（発熱の有・無，37.5℃以上でなくても平熱より高いか）
 - 咳
 - 息苦しさ
 - 喉の痛み
 - 倦怠感（だるさ）
 - 鼻水・鼻づまり
 - 頭痛
 - 下痢・嘔気、嘔吐
 - 関節痛・筋肉痛
 - 目の充血
 - 味覚の異常

【既に症状がある場合】

- ◎ いつ頃から症状が出ていますか。
- 症状は悪化していますか。軽減していますか。
- ◎ これまでに、どこかに相談したり、受診しましたか。そこで、どのように言われましたか。

	<p>【帰国者・接触者外来を受診している場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ PCR 検査の有無 <ul style="list-style-type: none"> 有の場合、結果が出ていれば確認。 結果がまだであれば、いつ結果が出るか確認。 <p>【相談・受診できていない場合】</p> <p>各自治体の相談マニュアルに従い、濃厚接触者であることを踏まえて対応してください。</p>
<p>重症化リスク</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎ これまで、大きな病気をしたことはありますか。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 糖尿病 ○ 高血圧 ○ がん ○ 心臓・血管の病気 ○ 喫煙 慢性呼吸器疾患 ○ その他、加療している疾患 ◎ その病気は、今、どのような状態ですか。(治療内容・コントロール状況)
<p>感染リスクの高い職業や重症化リスクの高い者と接する機会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎ どのようなお仕事ですか。(医療従事者・介護職・飲食店・小売店・接客業など) ◎ どちらに勤務されておりましたか。場所はどこですか。 ◎ 誰かを介護していますか。(要介護者は、糖尿病、高血圧、高脂血症、喘息、がん、心血管疾患等の重症化リスクがあるか) ◎ 最終出勤日はいつですか。 ➔ 重症化リスクの高い者と接する機会のある業務に従事し、必要と判断されれば、検査対象とすることができる。 <p>check! 積極的疫学調査実施要領「濃厚接触者への対応」参照</p>
<p>依頼 1. 最終接触から14日間の健康観察</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、▽月▽日（最終接触日から14日間）までの過ごし方について2点お願いがあります。 ・ 1つ目のお願いは、あなたの健康状態の経過を、これから毎日、電話かメールで（連絡方法は各自治体のルールに従う）確認したい、ということです。 <p>【健康観察が必要な理由を聞かれた場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あなたが発症しないか、心配だからです。 <p>【感染の可能性について質問された場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染した方と接触した全ての人が感染するわけではありません。中には、周りの人が誰も感染しない事例もあります。 ・ ただ、場合によっては、一人の患者さんから複数の人につうつている例もあります。ですから、あなたが発症しないか、経過をみる必要があります。

依頼 2. 外出自粛

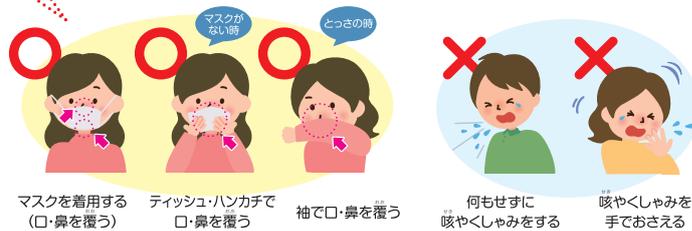
- ◎ 毎日、連絡するだいたいの時間をお約束させてください。
- ◎ 約束した時間以外でも、気になる症状が出てきたら、いつでもご連絡ください。連絡先は〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇です。

- ・ 2つ目は、▽月▽日（最終接触日から14日間）まで、自宅から出ないでほしい、というお願いです。
- ・ 今回の新型コロナウイルスは、「重症かどうか」と「他の人に感染させるかどうか」の関係がはっきりしないのが特徴です。実際に、微熱やのどの痛みだけの症状の軽い方が、広い範囲に行動できることもあり周囲にうつしていた例が多くあります。
- ・ あなた自身が誰かにうつして感染拡大させてしまう危険性を徹底的に減らすために、是非、ご協力ください。
- ・ 職場（または学校）に連絡していただくこととなりますが、心配なことはありますか？

check! 仕事や学校など状況別の聞き取りはP10-11「状況別優先順位」を参照

- ・ 自宅で過ごす間、丁寧に手洗いし、（同居する人がいる場合は）咳が出る場合は咳エチケットを守ってください。

3つの咳エチケット



- ・ やむを得ず外出する場合、公共交通機関の利用は控え、マスクがあれば着けてください。

【どうしても外出自粛しなければいけないのか、等協力を得にくい場合】

- ・ 例えばクルーズ船の乗員乗客や、チャーター便の帰国者のように、感染した人と接触した場合、14日間健康状態を確認しながら、他の人との接触を避けたことで、それ以上に感染が広がることはありませんでした（その他：和歌山県の医療機関、大阪のライブハウスも同様）。

【接触した患者（確定例）を加害者、自分を被害者のようにとらえている場合】

- ・ ○○さん（患者（確定例））も皆、どこかでウイルスと接触してうつってしまったので、個人が悪いということはありません。

【家庭内での注意事項を質問された場合】

厚生労働省「ご家族に新型コロナウイルス感染が疑われる場合 家庭内でご注意いただきたいこと」

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000601721.pdf>

■ 補足情報収集

- ◎ ○○さんと会っていた（または△△の時に居合わせた）時に、他の人はいましたか。
- ◎ この14日間くらいの中に、多くの人が集まるイベントに行きましたか。
- ◎ この14日間くらいの中に、海外には行きましたか。

*対象に応じて、P10-11を参照しながら、ハイリスク環境への接触について、確認する。

■ 情報連携

- 濃厚接触者の症状・他の接触者歴は、速やかに患者（確定例）所轄保健所（患者が居住している地域の保健所）に報告し、全ての情報が集まるようにします。

② 場や環境が特定される場合・組織（濃厚接触者はこれから選定）

患者（確定例）情報を開示する事例（職場・学校等）

■ 事前準備

- （患者（確定例）に対して）窓口となる方の連絡先・所属・氏名を教えてください。窓口となる方は健康管理室（産業医・保健師看護師）・人事総務の方・BCP担当部署・直属の上司等が候補になると思います（学生の場合は学生課や学校の相談窓口）。今後複数回連絡を取り、情報の取りまとめや作業をお願いすることがありますので、スムーズに連携いただける方が望ましいです。
- 「後ほど保健所から連絡が入る」という一報を事前に伝えておいてください。
- 月○日に保健所から窓口の方へご連絡予定です。

■ 説明・調査

- （窓口の方に対して）既にご本人から報告があったかと思いますが○○さんの新型コロナウイルス感染が確認されました。そこで、所属先での接触状況や周囲の方の健康状態について確認をしっかりとご連絡いたしました。
- 直接現地にお伺いして接触状況について確認させてください。
- その際には座席表をご用意ください。また、○月○日～○月○日に接触のあった方の氏名・接触状況のリストアップと現在の健康状態（症状がないか）の確認も併せてお願いします。
- ご本人からは○月○日に○○さんと接触があったと聞いていますが、その他に接触のあった方がいないかをご確認ください。なお、職場でのご本人の行動歴は○○さんが一番よくご存じのことでした。

check! 聞き取り内容はP10状況別優先順位「職場・仕事関係」を参照。

*依頼事項・調査の流れ・消毒方法等は資料を配布し説明することが望ましい。

■ 濃厚接触者特定・職場対応

- お伺いした接触状況から○○さん・○○さんを濃厚接触者として、最終接触日である○月○日から数えて14日となる○月○日までの自宅待機と健康観察のご協力をお願いいたします。
- 濃厚接触者の方には、患者（確定例）所轄保健所（患者が居住している地域の保健所）と情報連携をした後、連絡先について改めてご連絡いたします。その際に、症状のある○○さんについての具体的な対応をご説明します。

- 建物の消毒は手が触れる場所・飛沫が飛ぶ場所を中心にアルコールなどを含んだ布などで拭き取りで行ってください。
- 現時点で患者（確定例）の発生を理由とした建物の閉鎖を保健所が指示することはありません。

患者（確定例）情報を開示しない事例

■ 説明

- （窓口の方に対して）そちらの施設の利用者が新型コロナウイルスに感染していることが分かりました。本人の希望により氏名を開示できませんが、利用日時は把握しています。直接現地にて建物の様子や利用状況について確認させてください。
- ○月○日○時 - ○時に利用のあった方を特定できる場合はリストアップしてください。特定できない場合はおおよその人数を教えてください。

■ 対応方針の決定

- ○○の時間に利用していた方にメールまたは書面で広く感染者との接触の可能性について呼びかけをしてください。連絡先が不明な場合は店舗入口への掲示を検討してください。

1. 積極的疫学調査における
クラスター対策の位置づけ

2. 積極的疫学調査における
クラスター対策の
ねらいと手順

3. 聞き取り調査のヒント集

4. 濃厚接触者との
対応ポイント

5. 判断に迷ったとき・
こんなときどうする？
Q & A 集

付録

5

判断に迷ったとき・こんなときどうする？

Q&A 集

5-1. 聞き取り時、患者・家族の言動や体調面・感情面に関すること

Q1. 患者から暴言やクレームがあった場合

時には患者や家族の持つ怒りや不満などの感情を八つ当たりに表出されることがあります。怒っている人は保健師を責めているわけではありません。患者や濃厚接触者の怒りには、非難や否定をせず、感情を受け止めます。怒りを受け止めた後に、具体的に困っていること等を聴きます。

あらかじめ職場内で、発生時の手順（例：男性職員に対応を変わる、ヘルプカードを掲示する等）を確認しておきましょう。暴言やクレームは情緒的混乱などによって生じている場合もあります。このような状況に遭遇した場合は、深呼吸し、こころを落ち着かせて対応しましょう。決して一人で抱え込まずに組織として対応するようにしましょう。

Q2. 体調によって患者から聞き取りの中断の申し出があった

肺炎によって呼吸困難、倦怠感、高熱などの諸症状が生じていることを常に念頭に置きましょう。長時間の聞き取りは心身の負担を高めます。すべての情報を網羅的に聞こうとするのではなく、相手の状況に立って話を聴きましょう。中断の申し出があった場合は、追加での情報収集の連絡方法や日にちなど決めて、あらためて実施するようにします。

Q3. 深い悲しみへの対応（急に重症化した、または死亡した患者の家族等への対応の場合）

泣くことは、大切なもの・人を失ったことへの自然な反応です。安易な励ましや慰めではなく、ゆっくり話をよく聞き相手に寄り添うことが大切です。しかしながら、聞き取りの目的を果たすことも重要です。その場ですべて解決しようと思わずに、しかるべき相談窓口を紹介するなどして対応するようにしましょう。悲嘆や相手の者の感情に巻き込まれすぎないように、一定の距離を保ちましょう。

5-2. 濃厚接触者への連絡などに関すること

check! 濃厚接触者との対応は P12 以降にポイントをまとめてあります。

Q4. 連絡先の開示を拒否された場合

「感染の可能性がある」と知ることによって人との接触を控えたり、健康状態をしっかりと観察をしたり、感染拡大防止のための行動変容ができます。正しい情報を直接伝え、感染の連鎖を止めるためにも、「ぜひ教えてほしい」と再度協力を要請してください。情報の取り扱いには十分留意することも伝ええます。

Q5. 連絡先は開示しても良いが、自分の名前を出してほしくないといわれた場合

名前を開示しないと接触者の特定が困難であることを伝え、それでも拒否された場合は、「□□の施設は匿名で先方に伝えますが、対象者の絞り込みに協力してほしい」として具体的な利用日時や利用した場所等を確認してください。

Q6. 濃厚接触者に保健所からコンタクトを取ってほしくないと言われた場合

「あなたが直接相手の方と連絡をとっていただき、(1) 外出自粛 (2) 体調が悪くなった時には必ず××へ連絡をするよう呼びかけ、随時コンタクトをとっていただけますか。私たちはあなたを經由して相手の方の健康状態を確認し、必要な情報をお伺いします」として、できる限り繋がりが切れない工夫をしましょう。

1. 積極的疫学調査における
クラスター対策の位置づけ

2. 積極的疫学調査における
クラスター対策の
ねらいと手順

3. 聞き取り調査のヒント集

4. 濃厚接触者との
対応ポイント

5. 判断に迷ったとき・
Q & A 集
こんなときどうする？

付録



付録 1 :

積極的疫学調査に携わる保健師の皆さまの心のケア

直接お会いしたこともないのに（または初めてお会いする方に）、たくさんの情報を聞き取る調査は、大変な時間と労力を必要とします。本当にお疲れ様でした。平常時であれば、ゆっくり時間をかけて向き合っても、急速な感染拡大を防止すべく対応している現場では、なかなか思うように時間をかけることができず、ストレスを感じる人が多いのではないのでしょうか。明日からも、あなた自身が良いコンディションで向き合えるために、きちんとセルフケアしておきましょう。

セルフケア



■ 支援者である保健師も患者や家族と同じ状況に置かれています

感染症対策の現場では、環境が混乱しておりストレスの高い状態が続き、保健師も精神的な影響を被り心身に変調をきたしやすいことを理解しておきましょう。

■ セルフケアの方法

保健師は、自分自身のストレス反応を予防し効果的な援助をするために、セルフケアの方法を身につける必要があります。

check!

- ストレスの兆候が現れたら、恥じることなく、自分の気持ちやストレスに感じていることを素直に認めましょう。
- どんな調査をしたか事実関係を簡単に報告してから任務を解きます。
- 自分の仕事をポジティブに評価します・・・自分の仕事の意味を見出します。
- 自分の聞き取った内容や、それに対する自分の気持ちを仲間と話し合ってみます。
- 自分だけで何とかしようと気負わず、自分の限界を知り、仲間と協力し合い、お互いに声をかけながら活動します。
- 時々仕事をやめ、身体を伸ばしたり、深呼吸してみましょう。
- 家族や友人と過ごせる時間を大切にし、休めるときは十分に休みましょう。
- この経験によって、自分が成長できたかどうか考えてみましょう。
- ストレス症状が強すぎると感じる、お酒の量が増えたり、飲まずにはいられないと感じる、集中力や記憶力が低下したと感じたり簡単なミスが増えるのは、注意が必要なサインです。心身を休ませたり、専門家に相談しましょう。



組織的な対応



■ 役割分担と業務ローテーションの明確化

応援要員である保健師の活動期間、交替時期、責任、業務内容を明確にします。

■ 支援者である保健師自身のストレスについての教育

保健師が受けるストレスについて、個人的責任とするのではなく 組織全体・職場全体で適切に対処すべきであることを教育しておくことが大切です。どんなに忙しくても定期的な休息・休憩時間を取らせ、お互いに声をかけあう、相互に支援しあう職場の雰囲気を醸成できるよう心がけましょう。可能な範囲でミーティングを開き、課単位・係単位など小さな集団で意見を聞く場をつくり、業務の中で生じたストレスを対処する機会を設定します。

■ 住民の心理的な反応についての教育

住民から心理的な反応として、怒りなどの強い感情を向けられることについて事前に教育を行っておきます。

■ 業務の価値付け

組織の中ではしかるべき担当者が、今回の業務の価値を明確に認め、労をねぎらうことが重要です。

出典：東京都福祉保健局，災害時の心のケアの手引き（平成20年5月）より一部改変）

URL：https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/tamasou/sonota_jouhou/saigaitaisaku.files/saigai.pdf

1. 積極的疫学調査における
クラスター対策の位置づけ

2. 積極的疫学調査における
クラスター対策の
ねらいと手順

3. 聞き取り調査のヒント集

4. 濃厚接触者との
対応ポイント

5. 判断に迷ったとき・
こんなときどうする？
Q & A 集

付録



付録 2： 新型コロナウイルス感染症患者に対する 積極的疫学調査実施要領

国立感染症研究所 感染症疫学センター
令和 2 年 4 月 20 日版

■ はじめに

本稿は、国内で探知された新型コロナウイルス感染症の患者（確定例）等に対して、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第 15 条による積極的疫学調査を保健所が迅速に実施するため、作成されたものである。

「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針（令和 2 月 25 日）」においては、我が国に持ち込まれる新型コロナウイルスへの対応として、クラスター（患者集団）の感染源（リンク）が追えない事例が散発的に発生していることへの対策が必須であるとされた。また、新型コロナウイルス感染症対策専門家会議において公表された「新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言」（令和 2 年 3 月 19 日）では、2020 年 3 月時点で、クラスターの早期把握とともに、地域ごとの状況に応じた「市民の行動変容」や、リスクの高い行動を中心とした「強い行動自粛の呼びかけ」などを行うことが、感染の連鎖を小規模に留め、それぞれの地域における感染の制御と収束をもたらすことにつながると強調されていた。

■ 新型コロナウイルス感染症におけるクラスター対策の概念

実際に各地で行われてきた新型コロナウイルス感染症に対するクラスター対策は、可能な範囲での感染源の推定（さかのぼり調査）、及び感染者の濃厚接触者の把握と適切な管理（行動制限）という古典的な接触者調査を中心としている。クラスターの発端が明確で、かつ濃厚接触者のリストアップが適切であれば、既に囲い込まれた範囲で次の感染が発生するため、それ以上のクラスターの連鎖には至らない。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症を引き起こす SARS-CoV-2 は、やや若年の年齢層においては特に、無症状や軽症の感染を多く引き起こすことが分かってきた。このことは、見えにくいクラスターの発生が潜在的かつ広範に起こりやすいこと、また、それらの見えにくい感染の伝播が、高齢者などの高リスク群へと一気に移行した時には、同時期かつ大規模に集団発生（メガクラスター）が起こる中で、重症者が多発する危険性を秘めている点で、公衆衛生そして医療への大きな脅威であることが徐々に明らかとなってきた。このような患者発生は、国全体でというよりは、恐らく地域レベル、都市レベルで発生することから、地域や都市の保健所～自治体単位で常より準備し、この感染症の動向を良く分析し、対峙していくことが重要である。

患者発生（特に重症者）が地域の医療体制を揺るがすほどの規模で発生する、あるいは発生が予期される場合には、強力に地域の社会活動を停止させ、強制的にヒトーヒト感染の経路を絶つ、すなわち Social distancing を確実に実施する施策が行われることがある。そのような施策を実施している状況下では、感染経路を大きく絶つ対策が行われているため、個々の芽を摘むクラスター対策は意味をなさなくなるが、患者発生が一定レベルを下回る段階に落ち着いた時点からは、再びクラスター対策を実施していくことが必要となる。

2020 年 3 月末現在の状況は、日本を含む世界中で新型コロナウイルス感染症が発生し、多くの国で感染が拡大傾向にあることから、今後長期的に、仮に国内の患者発生が減少傾向となっても、輸入例を発端とする国内の新たなクラスターは常に発生しうるものと考えられる。すなわち、新型コロナウイルス感染症が世界中のどこかで発生している限り、クラスター対策は必要である。

■ 本稿の位置付け

本稿は、クラスター対策が意味を成す段階、すなわち、「大規模に患者が発生する前あるいは一定程度より下回った後」の「感染経路が明らかではない患者が散発的に発生しており、一部地域には小規模患者クラスター（集団）が把握されている状態」における積極的疫学調査に関する解説との位置付けである。

本稿は、先の基本方針で示された患者クラスターの検出及び対応に関する情報に加えて、特に「濃厚接触者」に関わる「患者（確定例）」の感染可能期間の定義を次のとおり変更した。

- ・発熱及び咳・呼吸困難などの急性の呼吸器症状を含めた新型コロナウイルス感染症を疑う症状（以下参照）を呈した2日前から隔離開始までの間、とする。

*発熱、咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、鼻汁・鼻閉、頭痛、関節・筋肉痛、下痢、嘔気・嘔吐など

■ 積極的疫学調査の考え方

各自治体が、厚生労働省が新型コロナウイルス感染症対策本部内に関係機関の協力の下、新たに専門家を配置（2月25日）したクラスター対策班や国立感染症研究所等関係機関の専門家との協力の上で、効率的に積極的疫学調査を行い、個々の患者発生をもとにクラスターが発生していることを把握し感染源を推定するとともに、濃厚接触者の把握と適切な管理を行う（囲い込みの実施）、あるいは確認された患者クラスターに関係する施設の休業やリスクが高いと考えられた活動の自粛等の対応の実施により、次なるクラスターの連鎖は防がれ、感染を収束させることが出来る。

自治体における新型コロナウイルス感染症の対応支援に関する窓口は、当面クラスター対策班に一元化するが、実地疫学調査に対する協力要請や調整は、従前どおり国立感染症研究所感染症疫学センター・FETP（実地疫学専門家養成コース）においても受け付ける。国立感染症研究所及び当クラスター対策班は、密接に連携し、感染の流行の早期の終息にあたることとする。

（用語の定義）

- 「患者（確定例）」とは、「臨床的特徴等から新型コロナウイルス感染症が疑われ、かつ、検査により新型コロナウイルス感染症と診断された者」を指す。
- 「疑似症患者」とは、「臨床的特徴等から新型コロナウイルス感染症が疑われ、新型コロナウイルス感染症の疑似症と診断された者」を指す。
- 「患者（確定例）の感染可能期間」とは、発熱及び咳・呼吸困難などの急性の呼吸器症状を含めた新型コロナウイルス感染症を疑う症状（以下参照）を呈した2日前から隔離開始までの間、とする。
*発熱、咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、鼻汁・鼻閉、頭痛、関節・筋肉痛、下痢、嘔気・嘔吐など
- 「濃厚接触者」とは、「患者（確定例）」の感染可能期間に接触した者のうち、次の範囲に該当する者である。
 - ・ 患者（確定例）と同居あるいは長時間の接触（車内、航空機内等を含む）があった者
 - ・ 適切な感染防護無しに患者（確定例）を診察、看護若しくは介護していた者
 - ・ 患者（確定例）の気道分泌液もしくは体液等の汚染物質に直接触れた可能性が高い者
 - ・ その他：手で触れることの出来る距離（目安として1メートル）で、必要な感染予防策なしで、「患者（確定例）」と15分以上の接触があった者（周辺の環境や接触の状況等個々の状況から患者の感染性を総合的に判断する）。
- 「患者クラスター（集団）」とは、連続的に集団発生を起し（感染連鎖の継続）、大規模な集団発生（メガクラスター）につながりかねないと考えられる患者集団を指す。これまで国内では、全ての感染者が2次感染者を生み出しているわけではなく、全患者の約10-20%が2次感染者の発生に寄与しているとの知見より、この集団の迅速な検出、的確な対応が感染拡大防止の上で鍵となる。

（積極的疫学調査の対象）

- 積極的疫学調査の対象となるのは、用語で定義する「患者（確定例）」及び「濃厚接触者」である。

「疑似症患者」が確定例となる蓋然性が高い場合には、確定例となることを想定して積極的疫学調査の対象とし、疫学調査を開始することも許容される。

- 何等かの理由により、無症状で検査を実施され「無症状病原体保有者（臨床的特徴を呈していないが、検査により新型コロナウイルス感染症と診断された者）」とされた者については、検体採取の時期や疫学情報に基づき、今後の発症の蓋然性ととともに、接触者に対して感染伝播をさせた場合の影響の大きさを評価し、接触者調査の実施について個別に判断する。

（地域の発生状況の把握）

- 保健所は、「患者（確定例）」や「疑似症患者」の届出状況、帰国者・接触者相談センターへの相談件数・医療機関受診に至った件数、さらには海外（流行の情報のある地域）からの帰国者に関する情報を総合的に分析し、地域における潜在的なクラスターの発生リスクを検討する。
- 自治体における PCR 検査の実施数、確定例の報告数、陽性の割合の推移、感染経路の特定できない報告例（リンク不明例）の発生状況を把握する。特に、リンク不明例の割合に関する情報は重要である。この割合が高まると、地域における潜在的なクラスター発生のリスクが高まっており、クラスター対策上の重点地域と評価されることがある。
- 全国の新型コロナウイルス感染症の発生状況も注視し、他地域と共通性のある広域事例の発生に留意する。国立感染症研究所ゲノム解析センターが行政検査として実施しているゲノム解析などの広域なウイルス学的情報を集約することが疫学的なリンクの解明に役立つ場合がある。
なお、帰国者・接触者相談センターへ相談する者の目安は2月17日時点では以下のとおりである。
 - 1) 風邪の症状や37.5度以上の発熱が4日以上続く者（解熱剤を服用中の者も同様に扱う。）
 - 2) 倦怠感や息苦しさがある者
 - 3) 重症化リスクが高い者（高齢者、糖尿病・心不全・呼吸器疾患の基礎疾患がある方や透析を受けている者、免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている者）が1)、2)が2日程度続く場合

（調査内容）

- 基本情報・臨床情報・推定感染源・接触者等必要な情報を収集する。（調査票添付1、2、3-1、3-2）
- 感染源推定については「患者（確定例）」が複数発生している場合には、共通曝露源について探索を行い、感染のリスク因子を特定した上で、適切な感染拡大防止策（共通曝露をうけたと推定される者への注意喚起を含む）を実施する。
- 「患者（確定例）」の接触者を探索する中で、接触者の候補者の中に、重症化リスクが高いもの（例：高齢者、免疫不全者等）、もしくは感染拡大に寄与することが懸念されるもの（例：医療・介護関係者等）が見いだされた場合には、「患者（確定例）」の行動履歴をより慎重に確認することが重要である。
- 感染源推定については、患者クラスター（集団）の検出及び対応という観点から、リンクが明らかでない感染者〔患者（確定例）など〕の周辺にはクラスターがあり、特に地域で複数の感染例が見つかった場合に、共通曝露源を後ろ向きに徹底して探していく作業の重要性、必要性があらためて強調される。これらは地域の、ひいては日本全体の感染拡大の収束に直結している。
- 積極的症例探索の実施に当たっては、「患者（確定例）」の行動調査の情報をもとに注意深く対象者を絞り込む。特に換気の悪い「密閉」された空間で多くの人が発声を伴う行動（歌唱や会話等）を、対面を含む「密接」した状況で行い、一定時間の接触がある場合（密集）、2次感染が発生する可能性が高くなることが知られる。
- 以上のような場所として、国内ではライブハウス、船内、スポーツジムなどが挙げられており、これら室内に類する環境での接触の有無については、従来の医療機関、福祉施設、職場、学校等に加えて丁寧に積極的症例探索を行う。
ただし、関係者の負担を減らすために、日々明らかとなるリスク要因の情報については、クラスター対策班・国立感染症研究所への情報の確認を行うことで、調査の実施が効率的になることが考えられるため、積極的に活用されたい。
- 国を挙げてクラスター連鎖の阻止に取り組む当面の状況としては、濃厚接触者の中で「患者（確定例）」

及び接触期間が長い同居家族等については、一般的な健康観察や行動自粛の要請等に留めて（後述）、保健所の調査に必要な体力を、他の患者クラスターの検出に向けることも重要かもしれない。国立感染症研究所や、新型コロナウイルス感染症対策本部・クラスター対策班の専門家において、これらの評価について協力・助言を行うことが可能である。

- 調査対象とした「濃厚接触者」に対しては、「患者（確定例）」の感染可能期間の最終曝露日から14日間は健康状態に注意を払い、前向きなフォローアップとして、発熱や呼吸器症状、倦怠感等が現れた場合、医療機関受診前に、保健所へ連絡するように依頼する。（調査票添付3-3）
なお、濃厚接触者の日々のフォローアップについて、保健所と対象者とが連絡を取り合う際の作業は出来るだけ簡略化し、負荷を減らす工夫を図っていただきたい（例：電話ではなくメールなどを主に用いる等）。
- 「濃厚接触者」については、発熱または呼吸器症状が現れた場合、検査対象者として扱う。感染リスクの高い者の何らかの発症であり、集団単位での感染拡大を封じ込める対応であることから、症状の軽重に抛らず、検査の必要性については、医師の判断を優先する。
- 原則として、健康観察期間中にある無症状の濃厚接触者は、新型コロナウイルスの検査対象とはならない（例外的な場合について後述）。自宅待機などの周囲への感染伝播のリスクを低減させる対策をとった上で、健康観察を行う。
- 無症状者を対象に検査を行う場合、ウイルスが存在してもどのタイミングで検出出来るかは不明であり、検査陰性が感染を否定することにはならず、引き続きの健康観察や自宅待機などの感染伝播のリスクを低減させる対策の継続が必須であることから、対策に直結しないことを十分に対象者に説明をし、検査を実施しない場合の意図について、理解を求めることが重要である。なお、「濃厚接触者」において、重症化リスクが高いと想定される者の体調の変化には十分注意を払う。

（調査時の感染予防策）

- 積極的疫学調査の対応人員が調査対象者に対面調査を行う際は、サージカルマスクの着用及び適切な手洗いを行うことが必要と考えられる。
- 咳などの症状がある調査対象者に対面調査を行う際は、患者にサージカルマスクを着用させ、対応人員はサージカルマスクの着用及び適切な手洗いに加え、眼の防護具（ゴーグルまたはフェイスシールド）を装着する。

（濃厚接触者への対応）

- 「濃厚接触者」については、健康観察期間中において、咳エチケット及び手洗いを徹底するように保健所が指導し、常に健康状態に注意を払うように伝える。不要不急の外出はできる限り控え、やむをえず移動する際にも、公共交通機関の利用は避けることをお願いする。外出時のマスク着用及び手指衛生などの感染予防策を指導する。
- 原則として、健康観察期間中である無症状の濃厚接触者は、新型コロナウイルスの検査対象とはならないことは前述の通りである。しかし、濃厚接触者が医療従事者等、ハイリスクの者に接する機会のある業務に従事し、感染状況の評価が必要と考えられる場合、クラスターが継続的に発生し、疫学調査が必要と判断された際には検査対象とすることができる。
- 「濃厚接触者」と同居している者には、マスクの着用及び手指衛生を遵守するように伝える。
- その他、「ご家族に新型コロナウイルス感染が疑われる場合 家庭内でご注意いただきたいこと～8つのポイント～」<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000601721.pdf> を参照のこと。
- 「濃厚接触者」に対する廃棄物処理、リネン類、衣類等の洗濯は通常通りに行うよう伝える。
- 「濃厚接触者」に児童生徒等がいる場合は、文部科学省の通知「新型コロナウイルス感染症に起因して海外から帰国した児童生徒等への対応について（3/26 現在）（通知）（令和2年3月26日）」https://www.mext.go.jp/content/20200326-mxt_kouhou01-000004520_3.pdf を参照する。
- 医療機関からの検体搬送については、「2019-nCoV（新型コロナウイルス）感染を疑う患者の検体採取・搬送マニュアル」を参照する。

執筆者

吉川 悦子	日本赤十字看護大学看護学部・准教授
福元 舞子	ソニー生命保険株式会社・保健師
井口 理	日本赤十字看護大学看護学部・准教授
鈴木 茜	国際医療福祉大学大学院・助教

監修

和田 耕治	国際医療福祉大学医学部
押谷 仁	東北大学大学院医学系研究科
鈴木 基	国立感染症研究所
齋藤 智也	国立保健医療科学院健康危機管理研究部

謝辞

本ガイド作成にあたり、多くの保健師から助言をいただきました。
ここに感謝申し上げます。

本資料の問い合わせ先

吉川 悦子 日本赤十字看護大学看護学部・准教授
Email : e-yoshikawa@redcross.ac.jp